



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア水事情：給水事業について

(9日付サウジ・ガゼット紙)

1. リヤード州のハーリド・ビン・バンドル知事は、約4億米ドルのリヤード給水事業（全27カ所、46の給水所を含む）を開始した。
2. アブドゥッラー・フサイン水電力大臣は、1カ月以内に24万立方メートル／日の水をジッダに追加配水することが可能になると発言した。これにより、ジッダへの総配水量が200万立方メートル／日となり、一人当たりには換算すると平均350リットル／日となる。加えて、Al-Baha は夏季初旬には Shuaiba 給水所から給水を受けることになる。サウジアラビアで最大規模の給水事業（66億7,000万米ドル）である Ras Al-Khair 給水所も、年末から運転を開始する。
3. フサイン大臣は、サウジアラビアの電力会社が、4,000MW／年の発電所を建設中であることも告げた。
4. NWC ジッダのアブドゥッラー・アッサーフ所長は、今のジッダの水不足は、給水所の保守作業、不法就労者に対するパスポート部によるキャンペーン、交通量のピーク時間におけるトラックの街中乗り入れ禁止等、様々な要因が起因していると発言した。
5. Suaiba 給水所の保守作業によって、ジッダへの給水量は大幅に減少した。その保守作業前までは、ジッダへの給水量は十分であった。現在、ジッダへの給水量は27%減っている。この水不足は、ジッダ周辺の注水所が過密であること、加えて、トラックが街中への乗り入れを制限されていることに起因する、と同所長は発言した。
6. トラックの乗り入れ禁止は、ジッダ県のみシュアル・ビン・マージド知事により撤廃されている。